

参考資料

平成28年度当初予算案における主要な施策

部 局 名
県 土 整 備 部

新規事業及び重要事業総括表

I 総 額

【一般会計】

区分	平成28年度	平成27年度	伸び率
予算総額	84,197,152千円	86,523,485千円	△2.7%
一般会計構成比	4.5%	4.7%	—

【埼玉県用地事業特別会計】

予算総額	1,787,842千円	1,082,593千円	65.1%
------	-------------	-------------	-------

【参考 公共事業の予算額】

(単位：千円)

区 分	平成28年度	平成27年度	増 減	伸び率
合 計	74,460,829	77,198,962	△ 2,738,133	△ 3.5%
直轄事業負担金除き	61,170,677	58,297,616	2,873,061	4.9%
道路事業	44,363,948	42,155,463	2,208,485	5.2%
補助	13,855,378	14,424,700	△ 569,322	△ 3.9%
単独	30,508,570	27,730,763	2,777,807	10.0%
河川事業	16,806,729	16,142,153	664,576	4.1%
補助	7,905,052	8,211,598	△ 306,546	△ 3.7%
単独	8,901,677	7,930,555	971,122	12.2%
計	61,170,677	58,297,616	2,873,061	4.9%
補助	21,760,430	22,636,298	△ 875,868	△ 3.9%
単独	39,410,247	35,661,318	3,748,929	10.5%
直轄事業負担金	13,290,152	18,901,346	△ 5,611,194	△ 29.7%
道路事業	5,000,000	9,000,000	△ 4,000,000	△ 44.4%
河川事業	8,290,152	9,901,346	△ 1,611,194	△ 16.3%

II 主な新規事業および重要施策

(単位 千円)

1 安心安全を実現し災害に強い県土づくり

<災害への備えの強化>

P 1	新規	首都直下地震に備えた“埼玉の扇”作戦による道路啓開【道路政策課】 【道路環境課】	18,744
P 2		橋りょうの耐震補強の推進【道路環境課】	3,245,000
P 3		総合的な治水対策の推進【河川砂防課】	5,330,600
P 4	新規	新方川浸水被害緊急対策事業【河川砂防課】	1,000,000
P 5	新規	堤防機能強化対策事業【河川砂防課】	1,140,000
P 6	新規	内水被害軽減支援事業【河川砂防課】	50,000
P 7		総合的な土砂災害の推進【河川砂防課】	1,089,135

<日常生活の安心安全の確保>

P 8		交通安全対策の推進【道路環境課】	2,294,527
P 9		交差点整備の推進【道路環境課】	1,625,000
P 10		安全な自転車通行空間整備の推進【道路環境課】	83,158
P 11		河川危険情報の発信【河川砂防課】	227,278

<既存ストックの計画的な維持補修>

P 12		橋りょうの計画的な管理の推進【道路政策課】 【道路街路課】 【道路環境課】	8,767,590
P 13		排水機場の計画的な維持補修【河川砂防課】	2,389,669

<建設業の担い手確保・育成>

P 14	新規	県土づくりの担い手確保・育成への支援【建設管理課】	63,634
------	----	---------------------------	--------

2 首都圏を支える県土づくり

P 15		威力倍増！幹線道路ネットワークの整備【道路街路課】	6,487,460
P 16	新規	魅力UP！時間が見えるインターアクセス道路整備【道路街路課】	2,214,800
P 17		東京都とのスクラム強化による道路整備の推進【道路街路課】	1,100,000

3 豊かな暮らしを実現する県土づくり

P 18	新規	SAITAMAおもてなしロードの整備【道路街路課】	330,250
P 19	新規	川の国埼玉 はつらつプロジェクトの推進【水辺再生課】	45,000

首都直下地震に備えた“埼玉の扇”作戦による道路啓開

担当	道路政策課	政策担当
内線	5 0 1 8	
担当	道路環境課	防災担当
内線	5 1 0 7	

1 背景・目的

大規模な地震の発生が指摘されている中で、人命救助や緊急物資の輸送のためのルートを確認するとともに、埼玉県が首都機能のバックアップの要として役割を担うため、国の「八方向作戦」と連動して、県内の緊急輸送道路網の道路啓開計画を策定する。

「八方向作戦」とは首都直下地震発生の際、都心に向けた八方向（八方位）毎に優先啓開ルートを設定して、郊外から一斉に道路啓開を進行する作戦

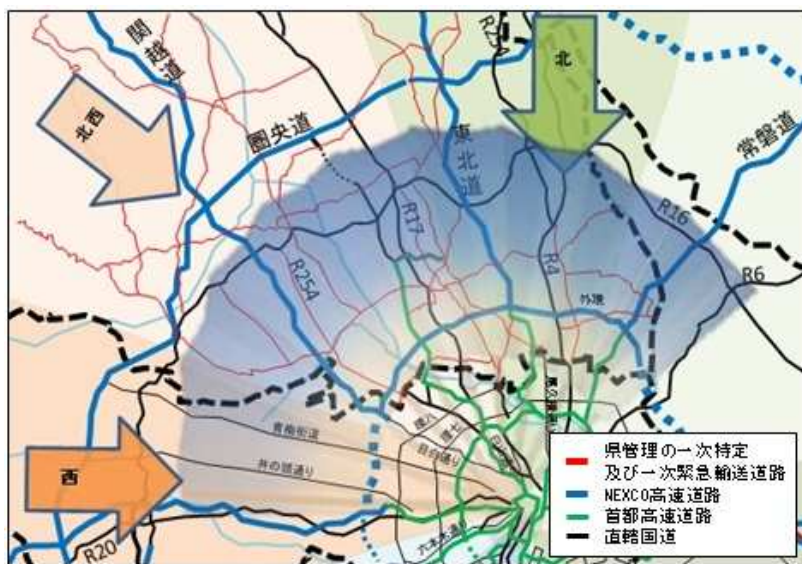
2 事業の概要

(1) 道路啓開計画の策定

優先啓開ルートの設定及びタイムラインの作成

(2) 道路啓開訓練の実施

放置車両等の移動を想定した訓練を実施



県南部の主な緊急輸送道路網



道路閉塞の状況

「埼玉の扇」とは県南部の道路網が扇状に広がる様子を例えたもの

3 予算額 18,744千円
道路網構想推進費など2事業

橋りょうの耐震補強の推進

担当 道路環境課 防災担当
内線 5107

1 背景・目的

阪神・淡路大震災では、昭和55年よりも古い基準で建設された橋りょうの多くで落橋などの甚大な被害が発生し、復旧に莫大な費用と長い期間を要した。

首都直下地震など大規模地震発生の切迫性が指摘される中、地震被害を軽減させるため、引き続き速やかに橋りょうの耐震補強を実施する。

2 事業の概要

橋桁を支える橋脚の損傷及び倒壊を防ぐための橋脚補強や、橋桁の落下を防ぐための落橋防止装置の設置を行い、広域交通を担う県管理道路の耐震補強工事を進める。

耐震化が必要な緊急輸送道路上の橋りょう132橋は完了。緊急輸送道路以外の橋りょう170橋のうち43橋が対策済（平成27年度末時点）



阪神・淡路大震災での損傷事例

平成28年度は県道中瀬牧西線（稲荷橋／本庄市）など86橋を整備する。

施工前



施工後



橋脚補強（鉄筋コンクリート巻立て）の例



落橋防止装置（チェーン）の例

3 予算額 3,245,000千円
橋りょう修繕費など2事業

総合的な治水対策の推進

担当 河川砂防課 荒川中流・小山川流域担当
内線 5 1 3 5

1 背景・目的

近年、台風の大型化やゲリラ豪雨が増加傾向にあるなど、浸水被害の頻発・激甚化が懸念されている。

県民が安心・安全に暮らせる県土を構築するため、計画的な河川整備、河川施設の機能向上や内水被害を軽減させる対策を組み合わせた、総合的な治水対策を推進する。

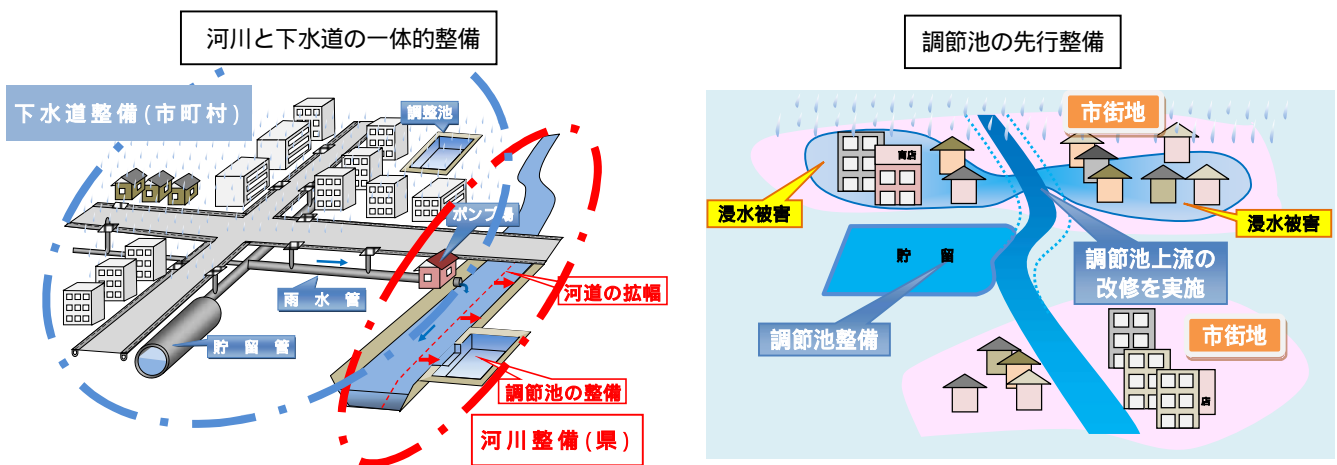
2 事業の概要

(1) 計画的な河川整備

集中豪雨による浸水被害を軽減するため、市町村が整備している公共下水道（雨水）の受け皿となる河川の整備を重点的に推進する。

また、河川の上流域で発生している浸水被害の早期軽減を図るため、調節池を先行して整備し、その上流の河川改修を進める。

平成28年度は新方川など14河川を整備する。



(2) 緊急的な治水対策

新方川浸水被害緊急対策事業（P 4 参照）

堤防機能強化対策事業（P 5 参照）

(3) 内水被害の軽減対策

内水被害軽減支援事業（P 6 参照）

3 予算額 5,330,600千円
社会資本整備総合交付金（河川）事業費など4事業

新方川浸水被害緊急対策事業

担当 河川砂防課 荒川中流・小山川流域担当
内線 5 1 3 5

1 背景・目的

平成27年9月の関東・東北豪雨は、越谷市で観測史上最大となる48時間で301.5mmの降雨を記録するなど、県の南東部を中心に甚大な被害をもたらした。

越谷市内の新方川流域では、市街地の雨水が河川まで排水できない内水により、せんげん台駅をはじめ1,800戸を超える床上床下浸水が発生した。

そこで、地元市の内水排除（ポンプ設置）と連携して床上浸水ゼロ・床下浸水半減を目指す。

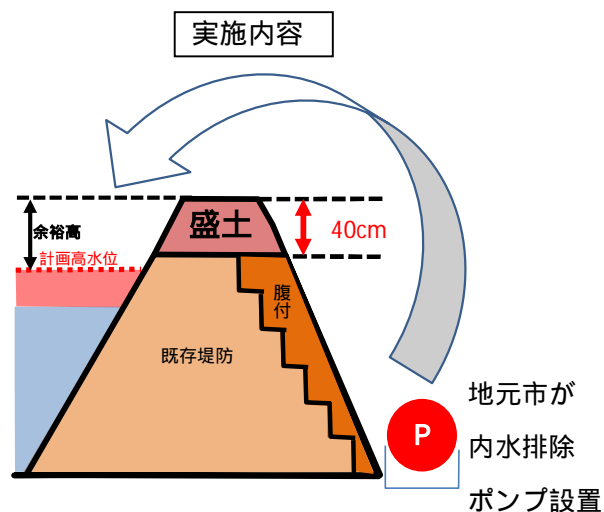
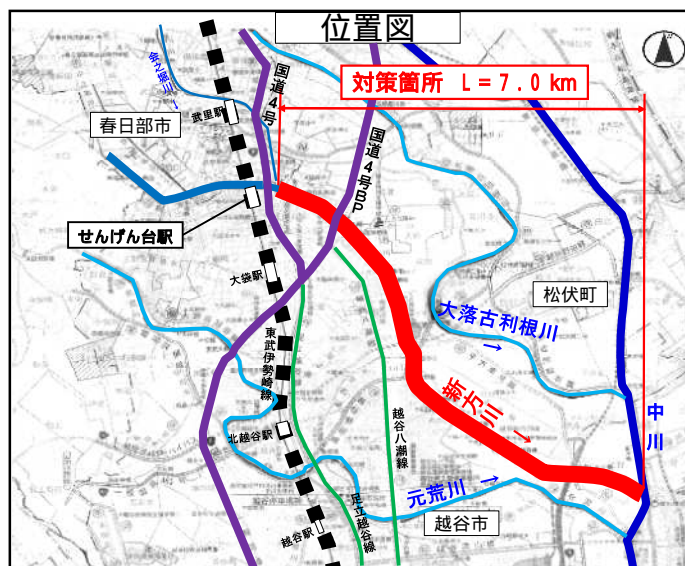
気象庁越谷観測所の記録



写真：せんげん台駅西口

2 事業の概要

新方川については、地元市の排水施設から河川への排水量を増加させるため、中川との合流点から上流7kmについて、緊急的に堤防の嵩上げなどの工事を実施する。



3 予算額 1,000,000千円
河川改修費

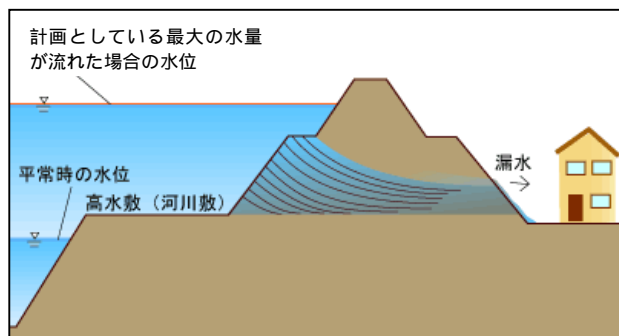
堤防機能強化対策事業

担当 河川砂防課 荒川中流・小山川流域担当
 内線 5 1 3 5

1 背景・目的

平成27年9月の関東・東北豪雨により、茨城県の鬼怒川では、越水や漏水などを原因とした堤防の決壊が発生し、流域に甚大な被害をもたらした。

そこで、過去に漏水が生じた箇所などにおいて県民の安心安全を確保するため堤防を強化する。

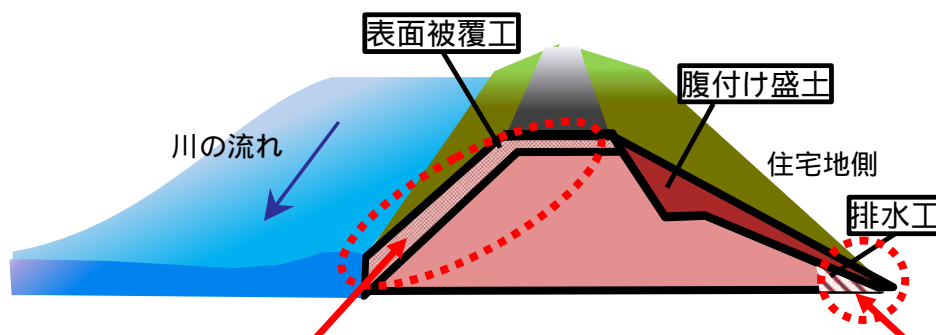


堤防からの漏水イメージ図

2 事業の概要

浸透による漏水の危険性が高い箇所など5河川19kmについて、平成28年度から30年度までの3年間で堤防強化工事を実施する。

平成28年度は、新芝川など5河川8kmで、コンクリートブロック及び遮水シートによる堤防表面の被覆工などを実施する。



コンクリートブロックによる対策



3 予 算 額 1,140,000千円
 河川改修費

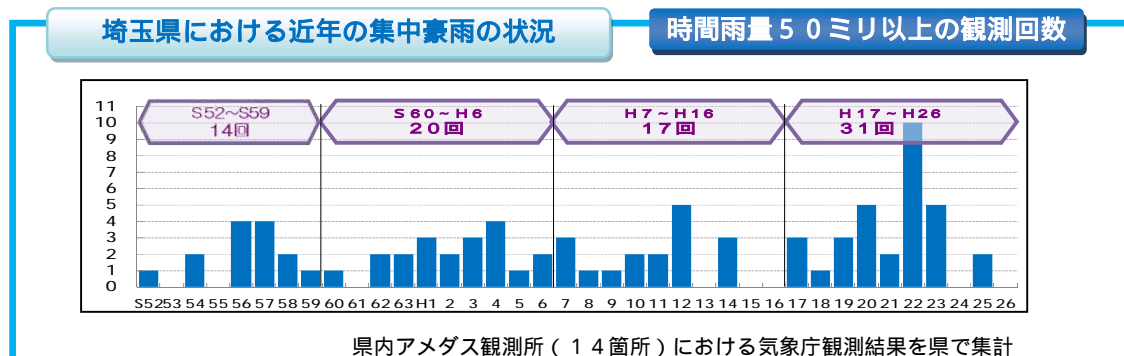
内水被害軽減支援事業

担当 河川砂防課 計画調査担当
内線 5 1 5 1

1 背景・目的

近年、局所的・短時間の大雨、いわゆるゲリラ豪雨の発生が増加傾向にあり、河川等に排水できないことによる内水被害の危険性が増している。

そこで、内水被害の軽減を図るため、市町が管理するポンプ施設から河川への排水量を増加させる。



2 事業の概要

河川の水位が上昇する前までの時間を利用して、市町が管理するポンプ施設から河川への排水を柔軟に受け入れるため、水理解析を行うとともに、ポンプ施設の適正な運用の検討を行う。

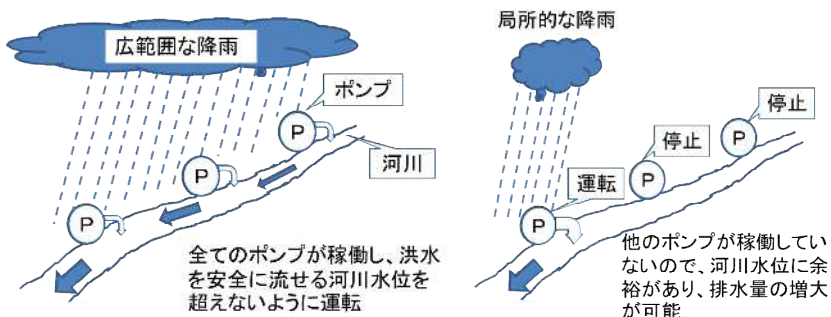
対象河川は、大落古利根川外4河川において行う。

*水理解析・・・計画対象の雨が降った場合の河川水位を数値解析で求め、ポンプの排水量を増大させた場合でも、洪水を安全に流下させることができるポンプ施設の配置や運転条件などの算定を行う。

ゲリラ豪雨の時間的特性



柔軟な排水受け入れの概念



3 予算額 50,000千円
河川改修調査費

総合的な土砂災害対策の推進

担当 河川砂防課 荒川上流域・砂防担当
内線 5 1 4 1

1 背景・目的

近年、台風の大型化やゲリラ豪雨が増加傾向にあり、土砂災害の発生リスクが高まっている。平成26年8月には、広島市において大規模土砂災害が発生し、多くの尊い命が失われるなど甚大な被害をもたらした。

埼玉県内には、土砂災害が発生する危険性のある土砂災害危険箇所が4,219箇所あり、住民の安全確保が課題となっている。



H26.8 広島市で発生した土砂災害



H19.9 神川町で発生した土砂災害

2 事業の概要

土砂災害から県民の生命と財産を守るため、土砂災害防止施設の整備などの「ハード対策」と、土砂災害警戒区域等の指定などの「ソフト対策」を組み合わせた土砂災害対策を進める。

ハード対策



砂防事業

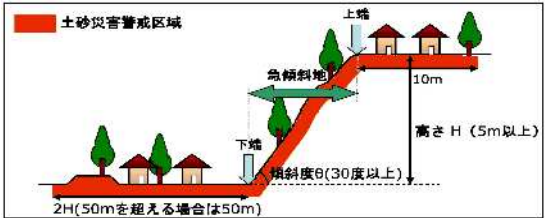


急傾斜地崩壊対策事業

災害の兆候や要配慮者利用施設があるなど、緊急性の高い箇所から土砂災害防止施設の整備を順次進める。

砂防事業	23 箇所
急傾斜地崩壊対策事業	14 箇所
地すべり対策事業	8 箇所

ソフト対策



土砂災害防止法に基づき土砂災害警戒区域等の指定を順次進めるとともに、警戒避難体制の整備を促進する。

土砂災害警戒区域の指定

土砂災害危険箇所	4,219 箇所
土砂災害警戒区域	4,153 箇所
区域指定率	98.4%

(H28.1 末現在)

H28 年度末までに指定完了を目指す

3 予算額

1,089,135千円

社会資本整備総合交付金(砂防)事業費など4事業

交通安全対策の推進

担当 道路環境課 交通安全施設整備担当 内線 5097
交通事故緊急対策担当 内線 5098

1 背景・目的

埼玉県内における平成27年の交通事故死者数は177人(全国ワースト5位)と高い水準にあり、死者数のうち歩行者の占める割合が最も高くなっている。

そのため、歩行者と自動車を分離する歩道整備を重点的に進めている。

また、児童が安全・安心に通学できる道路環境を早期に確保するため、歩道のない全ての通学路において安全対策を実施する。

2 事業の概要

通学児童生徒の安全のため、通学路の歩道整備を優先的に進めるとともに、交差点などでの信号待ちの際、安全に待機できる場所を確保する「たまり空間」の整備を行う。

平成28年度は、86箇所の歩道等を整備する。

また、平成26年度から平成28年度までの3年間で、道路の路肩を緑色に塗るグリーンベルト整備を進めている。

平成28年度は、105箇所、22kmのグリーンベルトを整備する。

整備例(歩道整備、県道大野東松山線：ときがわ町)



整備前



整備後

3 予算額 2,294,527千円
自転車歩行者道整備費など3事業

交差点整備の推進

担当 道路環境課 交通安全施設整備担当
内線 5097

1 背景・目的

埼玉県内の交通事故の約6割が交差点及びその付近で発生しており、右折帯のない交差点では交通渋滞が発生している。

これまでも計画的に交差点整備を進めており、整備箇所では交通事故件数が約2～3割減少、最大渋滞長が約6～7割減少という効果が得られている。

引き続き交通事故の減少や交通渋滞の緩和を図るため、交差点整備を進める。

2 事業の概要

交通事故が発生している交差点や最大渋滞長100m以上の交差点など40箇所を選定し、平成26年度から平成28年度の3年間で交差点整備を行う「安心・スムーズ交差点40プラン」を実施中である。

平成28年度は、21箇所で行う。

整備例（県道金明町鳩ヶ谷線：草加市＜清門町交差点＞）



整備前



整備後

3 予算額 1,625,000千円
交差点整備費など2事業

安全な自転車通行空間整備の推進

担当 道路環境課 交通事故緊急対策担当
内線 5098

1 背景・目的

自転車は子供から高齢者まで、手軽な交通手段として幅広く利用されているが、埼玉県内における平成27年の自転車乗車中の死者数は42名で全国ワースト3位となっている。

そこで、自転車の通行位置を明確にし、道路利用者の安心・安全を確保する自転車レーン等を整備する。

2 事業の概要

自転車の通行量が多い箇所や自転車事故が多い箇所などの交通安全対策として、広い路肩など既存の道路幅員を活用した自転車レーン等の自転車通行空間を整備する。

平成28年度は、6箇所、3kmにおいて整備する。

事業箇所の例



県道美土里町新堀線（熊谷市）



県道越谷八潮線（草加市）

3 予算額 83,158千円
自転車通行環境整備費など2事業

橋りょうの計画的管理の推進

担当 道路政策課 政策担当
内線 5 0 1 8
担当 道路街路課 橋りょう担当
内線 5 0 6 8
担当 道路環境課 防災担当
内線 5 1 0 7

1 背景・目的

埼玉県が管理する橋りょうの多くが高度経済成長期に建設されており、今後、一斉に大規模補修や更新の時期を迎え、補修・更新費用の急速な増加が見込まれる。

道路機能の安全性と信頼性を持続的に確保するため、橋りょうの計画的な管理を推進する。

2 事業の概要

(1) 保全計画の策定

架換えも含めた保全の考え方を加味し、15m未満の橋りょうも含めた全ての橋りょうの保全計画を策定する。

現在の「埼玉県橋梁長寿命化修繕計画」は、橋長15m以上の橋りょうが対象

(2) 着実な点検の実施

橋りょうの劣化の進行状況や補修の必要性を把握するため、橋りょうの定期点検を行う。

(3) 維持補修及び架換えの実施

橋りょうの安全性を確保するため、計画的に橋りょうの維持補修や架換えを行う。

維持補修：一般国道254号（小仙波橋／川越市）など158橋

架換え：県道伊勢崎深谷線（上武大橋／深谷市）など22橋

事業箇所の例



床版の劣化事例



県道伊勢崎深谷線（上武大橋）

3 予算額 8,767,590千円
社会資本整備総合交付金（改築）事業費など10事業

排水機場の計画的な維持補修

担当 河川砂防課 河川砂防情報システム・河川設備担当
内線 5 1 2 8

1 背景・目的

昭和43年から昭和60年に建設された排水機場は整備してから30年以上を経過し、設備の老朽化が進んでいるため、設備の適切な修繕や更新を実施する。

2 事業の概要

保守点検を毎年実施し、計画的に更新事業を進める。

平成28年度は、圀川排水機場などの44排水機場等の保守点検、修繕、更新等を行う。

事業箇所の例（一級河川圀川・圀川排水機場 / 八潮市）

（事業概要）

排水能力 40 m³/s（5 m³/s × 2台、10 m³/s × 3台）

事業年度 平成24年度～平成28年度

平成28年度事業 5号ポンプ設備更新工事

【排水機場全景】



【排水ポンプ設備外観】



- 3 予算額 2,389,669千円
社会資本整備総合交付金（河川）事業費など2事業

県土づくりの担い手確保・育成への支援

担当 建設管理課 紛争相談・指導監督担当
内線 5 1 7 1

1 背景・目的

建設業界では、若年労働者が減少傾向にあるとともに、早期離職率が高くなっている。特に、建設躯体工事業（型枠、鉄筋、とび等）については、近年、人手不足が著しく、公共インフラの整備及び維持管理、災害時の応急対応業務などに支障が生じる恐れがある。

このため、地域連携ネットワークを設立し、職場定着や資格取得を支援する。

地域連携ネットワーク …… 構成員：建設業団体、教育機関、職業訓練施設、県など

2 事業の概要

地域連携ネットワーク構成団体が行う次の研修の経費を補助する（補助率 2 / 3）。

（1）職場定着支援研修

新入社員や若手職員を対象に、社会人としての基礎的スキルを身に付けさせるとともに、建設業の担い手として自信を持たせ、モチベーションを向上させる研修を実施し、職場定着を図る。

（2）資格取得支援研修

施工管理技士や技能士などの国家資格を取得するための研修を実施し、技術・技能の向上を図るとともに、賃金アップなどの処遇改善につなげる。

（3）シニア指導者育成研修

熟練技能者であるシニア（ベテラン社員や経営者など）を指導者として育成する研修を実施し、建設業団体による人材育成体制の整備を図る。

【職場定着支援研修】



【資格取得支援研修】



3 予算額 63,634千円
建設技術者育成推進費

威力倍増！幹線道路ネットワークの整備

担当 道路街路課 国道・県道・橋りょう・街路担当
内線 5074

1 背景・目的

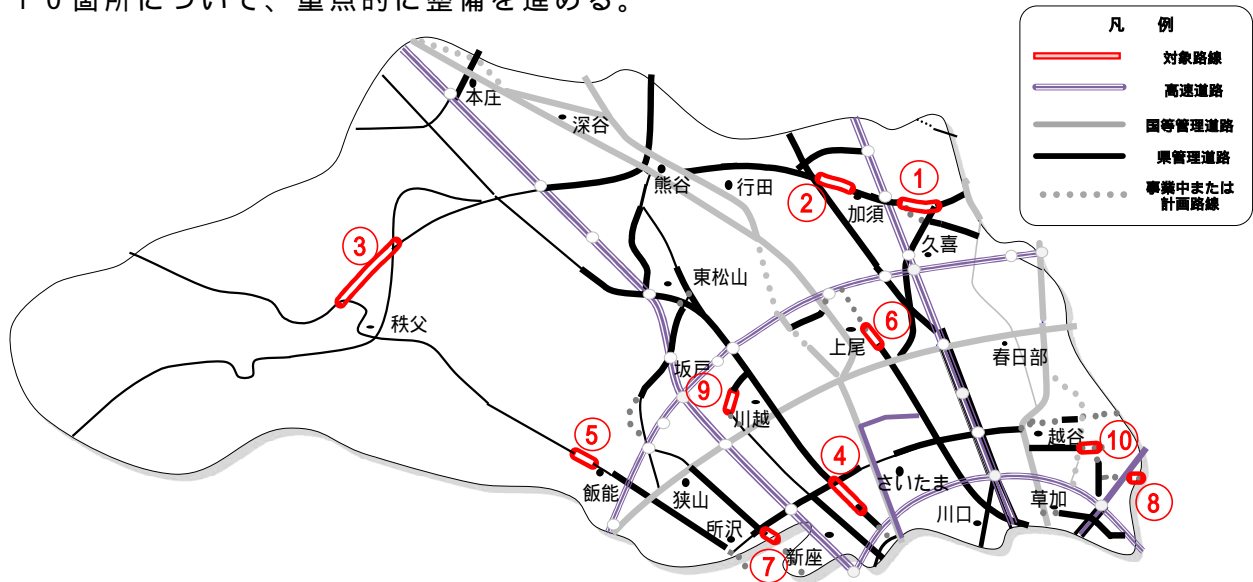
幹線道路は充実したネットワークにより、円滑な交通による産業支援や地域振興といった役割を担っている。

また、災害時には、一つの道路が被災しても他の道路で代替ルートを確認することが可能となる。

そのため早期に幹線道路ネットワークを整備する。

2 事業の概要

幹線道路の未接続箇所解消や暫定2車線で整備済の区間の4車線化など、9路線10箇所について、重点的に整備を進める。



H28年度事業箇所			
No	路線	市町村	工区
	国道125号	久喜市・加須市	栗橋大利根BP
	国道125号	加須市・羽生市	加須羽生BP
	国道140号	皆野町・秩父市	皆野秩父BP
	国道254号	和光市ほか	和光富士見BP
	国道299号	飯能市・日高市	飯能日高BP
	県道さいたま菖蒲線	上尾市	原市平塚
	県道練馬所沢線	所沢市	下安松
	県道越谷流山線	三郷市	(仮称)三郷流山橋
	(都)川越北環状線	川越市	小室
	(都)越谷吉川線	越谷市・吉川市	吉川

3 予算額

6,487,460千円

社会資本整備総合交付金(改築)事業費など6事業

魅力UP！時間が見えるインターアクセス道路整備

担当 道路街路課 国道・県道・街路担当
内線 5074

1 背景・目的

圏央道の県内全線開通により高速道路網がさらに充実した埼玉県は、都内・東北・日本海側など全方位に産業経済活動を展開できることが大きな利点であり、交通の要衝として埼玉県の魅力がさらに高まっている。

この高速道路ネットワークを最大限に活かす道路整備を進め、企業進出をさらに促進させる。

2 事業の概要

県内の企業立地ポテンシャルを高めるため、埼玉県の骨格を形成する主要な幹線道路である5路線5箇所について、開通目標年度を公表し、インターチェンジへのアクセス機能強化を図る道路整備を推進する。

施策のイメージ

▶目的地までの時間が見える！



▶開通までの時間が見える！



事業実施箇所

No	路線	市町村	工区	開通目標年度
	(都)川越北環状線 [再掲]	川越市	小室	平成30年度
	県道飯能寄居線	日高市	新堀・北平沢	平成30年度
	国道125号 [再掲]	久喜市・加須市	栗橋大利根BP	平成31年度
	国道407号	鶴ヶ島市・日高市	鶴ヶ島日高BP	平成32年度(部分供用)
	県道東松山鴻巣線	吉見町	久保田	平成33年度

3 予算額 2,214,800千円 (一部再掲)

社会資本整備総合交付金(改築)事業費など4事業

東京都とのスクラム強化による道路整備の推進

担当 道路街路課 県道・街路担当
内線 5074

1 背景・目的

荒川から西側の都県を結ぶ幹線道路は、東京都、埼玉県ともに整備を進めているが、都県境部が未整備となっており地域の発展の妨げとなっている。

また、大規模地震の発生が指摘され、大規模災害時においても円滑な防災活動の展開が求められている。

2 事業の概要

都県境が未接続道路となっている県道練馬所沢線（東京狭山線、放射7号線）、都市計画道路飯能所沢線の2路線の整備を推進する。

事業箇所の例（県道練馬所沢線：所沢市、新座市）

<h3>位置図</h3>	
<h3>凡例（練馬所沢線）</h3> <ul style="list-style-type: none">——：埼玉県整備済- - - -：埼玉県施行——：東京都整備済.....：東京都施行	
<h3>練馬所沢線の整備状況（所沢市下安松）</h3>	<h3>練馬所沢線の現状（新座市新堀）</h3>

3 予算額 1,100,000千円（一部再掲）
社会資本整備総合交付金(改築)事業費など4事業

S A I T A M A おもてなしロードの整備

担当 道路街路課 街路担当
内線 5056

1 背景・目的





「2019年ラグビーワールドカップ」や「2020年東京オリンピック・パラリンピック」の開催により、外国人を含めた多くの観光客が東京近郊を訪れることが見込まれる。

これらを契機に、地元市や地域住民の取組などと連携して、埼玉県を訪れる観光客の印象に残る「おもてなし」の道路空間づくりを行い、リピーターや新たな観光客を増加させ、まちの活性化を図る。

2 事業の概要

川越市の都市計画道路中央通り線と秩父市の都市計画道路中央通線の2路線について、電線の地中化や歩道を拡幅することで、歩行者が安心して周遊できる道路を整備する。道路整備にあわせて、地元市や地域住民は沿道の良い景観形成に取り組んでいく。

事業箇所

川越市中央通り線	
現 状 幅員 11.0m	整備イメージ 幅員 20.0m
	
→	
秩父市中央通線	
現 状 幅員 10.0m	整備イメージ 幅員 16.0m
	
→	

3 予算額

330,250千円

社会資本整備総合交付金(街路)事業費など2事業

川の国埼玉 はつらつプロジェクトの推進

担当 水辺再生課 水辺再生事業担当
内線 5 1 1 3

1 背景・目的

埼玉県は、平成20年度から「水辺再生100プラン」、平成24年度から「川のまるごと再生プロジェクト」を推進し、県民や市町村と協働する仕組みで県内の主な箇所では魅力ある水辺空間を創出してきた。この取組により、地域で川を守る活動が広がり、地域の資産に育っている。

そこで、川を活用しようとする市町村の地域振興の取組と連携し、人もまちも川も“はつらつ”とするよう更なる川の活用を推進し、地域の資産として育てることにより「川の国埼玉」の実現を目指す。

はつらつ【澗刺，澗瀨】 魚が元気よくとびはねるさま。元気のよいさま。生き生きしているさま。

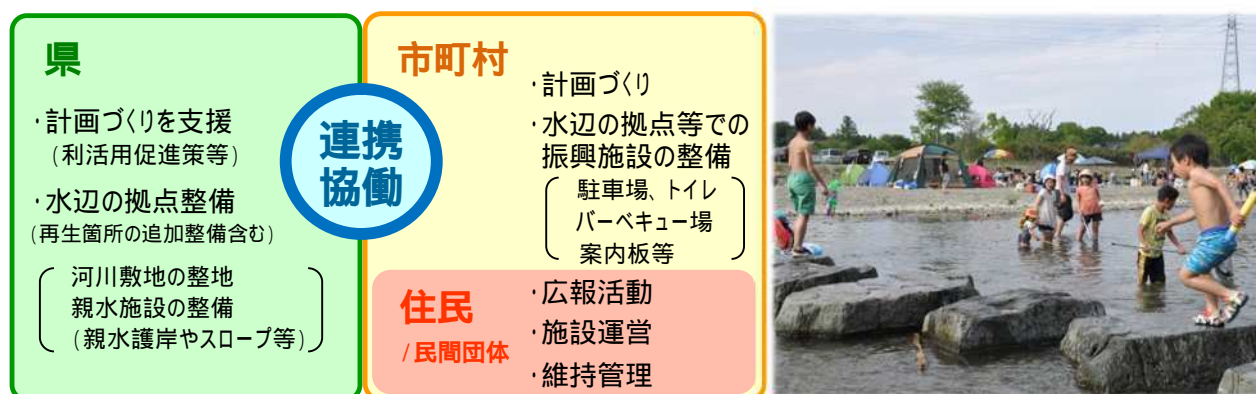
(出典 広辞苑第三版/(株)岩波書店)

2 事業の概要

川を資源としてまちづくりや観光地づくりを行う市町村と連携し、地域振興に資する魅力ある水辺づくりを行う。

初年度となる平成28年度は、市町村提案に基づき箇所を選定し、箇所ごとの計画策定等に着手する。県は、県管理河川の整備に係る測量・設計・工事を実施し、市町村と協働で事業を推進する。

取組内容



3 予算額 45,000千円
川の国埼玉 はつらつプロジェクト推進費